

時・人・モノ 流れでつながる6つのストーリー

1 台地と谷津の恵みが生んだ人々の暮らし

江戸川沿いや坂川流域は、台地と谷津（低地）が複雑に入り組んだ地形です。低地に近い台地上は集落など居住の場、谷津（低地）は漁労や水田等の生産の場として、3万年前の旧石器時代から多くの人々が生活の場として利用してきました。その痕跡は遺跡として約260か所確認できます。

縄文時代では、気候の温暖化に伴い、流山市付近まで海が入り込み、多くの遺跡から貝や魚の骨等が出土しています。特に中野久木谷頭遺跡、小谷貝塚、三輪野山貝塚は大規模な環状集落が形成され、出土品から様々な地域との交流があったことが窺えます。

弥生時代には、集落の規模が小さくなりますが、古墳・奈良・平安時代になると、谷津を水田として利用し、三輪野山から加・平和台・鰯ヶ崎にかけての台地には、大規模な集落が形成されます。

これらの遺跡の多さは、水害の心配が少ない台地と水の便がよい谷津で成り立つ住みやすい環境だったことを物語っています。

構成文化財

未指定文化財

有形文化財 考古資料

東深井古墳群出土埴輪 三輪野山貝塚出土ヒスイ加工関連遺物

加町畑遺跡出土神功開寶 三輪野山宮前遺跡出土下総国分寺同范瓦

思井堀ノ内遺跡出土青磁 白磁 鏡

西平井根郷遺跡出土和鏡 短刀 和はさみ

記念物 遺跡

中野久木谷頭遺跡 小谷貝塚 中野久木貝塚 上新宿貝塚

上貝塚貝塚 三輪野山貝塚 野々下貝塚 加村台遺跡

下花輪林下遺跡 大畔中ノ割遺跡 東深井古墳群 加地区遺跡群

1 台地と谷津の恵みが生んだ人々の暮らし

ストーリー固有の方針

多くの遺跡の存在は、古くから住みやすい土地であったことの表れです。遺跡の存在を周知することで、郷土への関心や愛着を深めていきます。

課題

- ・東深井古墳群・三輪野山貝塚等、遺跡の史跡指定がありません。
- ・出土した土器や石器等の重要遺物の文化財指定がありません。
- ・発掘した資料の整理・収蔵施設の整備が必要です。
- ・発掘した報告書の刊行を進めていく必要があります。
- ・遺跡や出土品の周知・公開を進めていく必要があります。
- ・遺跡の価値や保存できる環境を整備していく必要があります。

方針

- ・東深井古墳・三輪野山貝塚等の史跡の市指定・登録・文化財認定を進めていきます。
- ・重要な出土遺物の市指定・登録・文化財認定を進めていきます。
- ・出土した資料を整理・収蔵する施設の整備を進めていきます。
- ・遺跡がある(あった)現地に文化財説明板の設置を進めていきます。
- ・出土した資料の展示・公開を進めていきます。
- ・報告書の刊行を促進していきます。
- ・市民に対して遺跡の存在を周知・関心を図り、住みやすい街への関心を高めていきます。

保存と活用に関する措置

番号	措 置	内 容	取組主体					取組年度							
			市 民	地 域	団 体	専 門 家	行 政	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	
1 (1)※	東深井古墳 群・三輪野 山貝塚の史 跡の市指定 《重点事業》	東深井古墳群・三輪野山 貝塚の史跡の市指定を進 めていきます。				○	◎								
2 (1) (2) (3)	重要遺跡の 史跡の市指 定	重要遺跡の史跡の市指 定・登録・文化財認定を進 めていきます。	○	○		○	◎								
3 (1) (2) (3)	出土遺物の 市指定	発掘調査で出土した土器 や石器等の遺物の市指 定・登録・文化財認定を進 めていきます。	○			○	◎								
4 (13)	文化財整理 室・収蔵施 設の整備	東洋学園大学旧校舎を 文化財整理室・収蔵施設 として整備を進めます。					◎								
5 (30)	文化財説明 板・案内板 の作成	遺跡の周知を図るために 看板・案内板の作成を進 めます。	○		○	○	◎								
6	出土遺物の 展示・公開	出土遺物の展示や公開を 進め、市民への関心を高 める取り組みを進めま す。					◎								

番号	措 置	内 容	取組主体					取組年度						
			市 民	地 域	団 体	専 門 家	行 政	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12
7 (28)	発掘調査報告書の刊行	発掘調査の成果を公表する発掘調査報告書の刊行を進めていきます。				◎	◎							
8	遺跡への関心・継承	多くの遺跡の存在は住みやすい街への証であり、周知を図ることで、郷土への関心・愛着を深める施策を検討していきます。	○	○	○	○	◎							

※括弧内は第8章の取組番号